

各 位

会社名 東日本ハウス株式会社
 代表者名 代表取締役社長 成田和幸
 (JASDAQ・コード 1873)
 問合せ先 取締役財務・総務担当 青苺雅肥
 TEL (03) 5215-9905

平成19年10月期 通期(連結・単独)業績予想の修正に関するお知らせ

平成19年10月期(平成18年11月1日～平成19年10月31日)の業績予想について平成19年9月14日付当社「平成19年10月期 第3四半期 財務・業績の概況」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

1. 通期連結業績予想の修正(平成18年11月1日～平成19年10月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	70,300	4,400	3,100	1,200
今回修正予想(B)	66,000	3,430	2,190	△80
増減額(B-A)	△4,300	△970	△910	△1,280
増減率(%)	△6.1%	△22.0%	△29.4%	—
[ご参考] 前期(平成18年10月期)実績	69,314	3,880	2,898	△6,279

2. 単独業績予想の修正(平成18年11月1日～平成19年10月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	61,200	3,500	2,400	1,000
今回予想(B)	57,250	2,630	1,410	△180
増減額(B-A)	△3,950	△870	△990	△1,180
増減率(%)	△6.5%	△24.9%	△41.3%	—
[ご参考] 前期(平成18年10月期)実績	60,897	3,388	2,530	△7,149

3. 修正理由

当連結会計年度における住宅市場は、平成19年6月に施行された建築基準法の改正の影響により新設住宅着工戸数が大幅に減少するなど低迷しました。住宅市場全般に住宅需要が減退する状況下において当社の主力事業の戸建住宅の受注は計画を下回りました。

連結及び単独売上高は受注計画を下回ったことにより、完成工事高が前回予想より3,815百万円減少し66,000百万円となる見込みであります。

営業利益および経常利益は原価の低減および一般販管費の削減に努めましたが、売上高の減少の影響により前回予想を下回り営業利益3,430百万円、経常利益2,190百万円となる見込みです。

当期純利益は、繰延税金資産438百万円を取崩したことにより前回予想を下回り△80百万円となる見込みです。単独につきましても同様となります。

(注) 上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上